

## 「聖なる山、祈りの家」

2024年5月

聖書科 羽島 健司

また、主のもとに集って来た異邦人が／主に仕え、主の名を愛し、その僕となり／  
安息日を守り、それを汚すことなく／わたしの契約を固く守るなら わたしは彼らを聖なるわたしの山に導き／  
わたしの祈りの家の喜びの祝いに／連なることを許す。彼らが焼き尽くす献げ物といけにえをささげるなら／  
わたしの祭壇で、わたしはそれを受け入れる。わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる。

(イザヤ書56章6-7節)

私は今年のクリスマスのころに、「聖なる山」に二つ、登ってまいりました。

ひとつ目の「聖なる山」は、河内長野市内で、清教学園や三日市町駅の近くにありますが、烏帽子形山(やま)です。ここにはかつて、烏帽子形城(じょう)という山城が築かれておりました。

私はクリスマスイブの日、河内長野教会の朝の礼拝に出て、続く午後に烏帽子形城に登り、そして夜には河内長野教会のイブ礼拝に出ました。頂上付近はとても見晴らしがよく、河内長野教会の赤い屋根もはっきりと見ることができました。

さらにその奥には、もうひとつの「聖なる山」、飯盛山をも見渡すことができました。

続くクリスマスの日の夕方、私は通勤で使っている原付で、もうひとつの「聖なる山」、飯盛山へと向かいました。その日は近くで一泊し、明るる日に飯盛山に登りました。

この飯盛山にも「飯盛山城」があります。頂上付近には、烏帽子形城よりもだいぶ広いスペースがあり、「千畳敷郭」と呼ばれています。そこでは城主の三好長慶の趣味で、茶会や連歌の会が催されていた、とのことでした。

ところで、私はここまで何の前置きもせず、烏帽子形山や飯盛山は「聖なる山」だと申し上げてきました。いったい何が「聖なる山」なのでしょう?

それは、それらの山が、16世紀のキリシタンゆかりの地だったからです。

烏帽子形城は、一時期キリシタンの伊地智文太夫が城主で、近くには教会も作られたと記録されています。飯盛山城では1564年に、三好長慶の家臣73名と、その他の人々約500名が洗礼を受け、キリシタンになりました。山の麓には、立派な教会が複数、建てられていたそうです。

400年以上前、日本人という「異邦人」から多くの人々が「主のもとに集い」、洗礼を受け、教会という「祈りの家」を建てて、信仰生活を送っていたのです。

今回のイザヤ書の聖書箇所には、「異邦人」から神様に受け入れられた人々による、信仰生活の送り方が、いくつか書かれています。それは烏帽子形山や飯盛山の周りのキリシタンの人々も、実際に行っていたことのはずです。

(次ページに続く)

6節ではまず、異邦人が自主的に「主のもとに集って来た」と書かれています。また、「主に仕え、主の名を愛し、その僕となり」とも書かれています。神様は、元異邦人が積極的に神様を愛して、自ら集まってくることを、高く評価してくださるようです。

そして「安息日を守り」という言葉は、キリシタンや現代のクリスチャンにとっては、日曜日ごとの礼拝を守ることとほぼ同じ、と言えるでしょう。週に一度の礼拝を大事にし、「それを汚さない」のは、信仰生活にとっても大事なことです。だからこそ400年前のキリシタンの人々も、教会を建てて礼拝を守っていたわけです。

6節の最後の行、神様の「契約を固く守る」という言葉は、神様との契約書である「聖書」に親しみ、そこから神様のアドバイスをいただいて生きる、と言い換えられます。

聖書に親しみ、週に一度の礼拝を守り、そこから得られた神様からのアドバイスに導かれて生きる。400年前のキリシタンも現代のクリスチャンも、そうした生き方によって「祈りの家の喜びの祝いに連なって」きたのです。

ところで、先ほど私は異邦人が「自主的に」集って来た、と申しましたが、厳密に言うとそれは間違いです。神様やイエス様との接点がほとんど無かった異邦人が、最初から自主的に神様のもとに集まることはできません。キリシタンの人々にしても、神様からの招きが「ヨーロッパからの宣教師」という形で与えられたからこそ、神様のもとに集まることができたのです。

ですから、現代の私たちにとっても、「神様の招きを受ける」ことが、とても大事です。

そうした「神様の招き」に思いをめぐらしているうちに、私はこの清教学園そのものが「神様の招き」ではないか、と感じました。本格的な信仰生活の前の入門編として、清教学園があるのではないか、と思うのです。

清教学園では、生徒も教職員も、「朝の礼拝」を守り、その中で「聖書」を読んでいます。しらかしの径の上り下りを「聖なる山」と呼ぶことも、できるかもしれません。それらは自然に、信仰生活の予行演習になっているのではないかと思います。

清教学園に集う一人ひとりに、「聖なる山、祈りの家」の「喜びの祝い」、神様からの祝福が与えられますようにと願います。